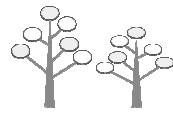


令和8年度 定期予防接種のご案内



令和8年4月改定

予防接種の進め方

- 『**予防接種と子どもの健康**』をよく読みましょう。対象年齢、接種回数、接種間隔、副反応を確認し、健康な時に接種計画を立てましょう。予防接種の種類により接種間隔に注意が必要です。例えば、異なる不活化ワクチンどおしの接種間隔は、接種間隔に制限はありませんが、異なる注射生ワクチンどおしの接種間隔は27日以上おくこととなります。また同じ種類のワクチンを複数回接種する場合は、決められた接種間隔を守りましょう。
- 持ち物** 母子健康手帳(医療機関に記録してもらう必要があります)、マイナ保険証(資格確認証等)、予診票(医療機関にもあります)、予防接種番号カード(黄色のカード)
- 実施場所** 伊丹市に住民登録があれば市内予防接種実施医療機関(裏面参照)で接種可。(予約要)(無料)
(注)市外へ転出された場合、転入先の市区町村で接種方法をご確認ください。
- やむを得ず市外にある医療機関で予防接種を希望する場合** 事前申請が必要です。(母子健康手帳持参)市ホームページよりオンライン申請もできます。
- 長期にわたり療養を必要とする病気にかかったため医師より接種不可と指示されていた場合**
医師が専用書式に証明し、保健センターで申請すれば回復後2年間接種の対象となります。(条件あり)
- 保護者が予防接種に同伴できない場合** 接種の際に保護者の委任状が必要です。

種類	対象者	回数	接種について	備考
ロタウイルスワクチン(経口生ワクチン)	初回接種は、出生6週0日後～(標準:生後2か月になる前日)～)出生14週6日後までに。	2回	ロタリックス(経口弱毒生ヒトロタウイルスワクチン)2回(27日以上おいて)は、出生24週0日後までに完了。	1回目は出生14週6日後までに接種を。ただし、出生15週後以降1回目接種は腸重積症の健康被害の発生率が上がります。そのことを了承された場合は定期接種として接種できます。
		3回	ロタテック(5価経口弱毒生ロタウイルスワクチン)3回(27日以上おいて)は、出生32週0日後までに完了。	
B型肝炎(不活化ワクチン)	出生後～1歳になる前日	3回	2回(27日以上おいて)接種後、3回目は1回目の接種日より139日(20週)以上おいて、1歳の前日までに接種。 標準接種時期:生後2か月、生後3か月、生後7～8か月で接種	出生直後、母子感染予防のため、B型肝炎の予防接種を受けた人は3回とも健康保険での接種対象となります。(定期接種にはなりません)
5種混合(ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ・ヒブ)	生後2か月の前日～7歳6か月になる前日	4回	(5種混合)3回(27日以上おいて)接種後、追加接種は、3回目より6月以上(標準接種間隔6月から18月おいて)1回接種。	

※母子健康手帳や接種済証などの接種記録は、学校入学時など必要となることがあります。大切に保管を。マイナポータルから確認もできます。
※今後制度が変更となることがあります。予防接種に関する情報は、市ホームページもあわせてご確認ください。

伊丹市立保健センター

伊丹市千僧 1—1—1

TEL784-8034/FAX784-3281

種類	対象者	回数	接種について	備考	
結核(BCG)注射生ワクチン	生後3か月になる前日～1歳になる前日	1回	標準接種時期:生後5か月～8か月	結核性髄膜炎や粟粒結核など小児の重篤な結核発症予防となります。	
小児用肺炎球菌感染症(不活化ワクチン)基本的にPCV20価を接種。PCV15価で接種を開始している場合は残りをPCV15価で接種。	生後2か月になる前日～5歳になる前日(初回接種開始時期により接種回数が異なります。)	4回	生後7か月の前日までに接種を開始 3回(27日以上おいて)接種後、追加接種は3回目より60日以上おいて、生後12月～15月(2歳まで)に1回接種。2回目は1歳を過ぎたら、3回目は2歳を過ぎたら接種不可。追加接種は実施可。		
		3回	生後7か月から1歳の前日までに接種を開始 2回(27日以上おいて)接種後、追加接種は1歳以降、2回目より60日以上おいて1回接種。2回目は2歳を過ぎたら接種不可。追加接種は実施可。		
		2回	1歳～2歳の前日までに接種を開始 60日以上おいて2回接種。		
		1回	2歳を過ぎて接種を開始 1回で終了。		
MR(麻しん風しん)注射生ワクチン	1期	1歳になる前日～2歳になる前日	1回	人が集まる場所や集団生活の場での麻しん風しんの流行を防ぎます。1歳の早めの時期に接種を。	空気感染、飛沫感染、接触感染による麻しん、風しんの感染を予防します。
	2期	幼稚園、保育所(園)の年長組の年齢相当の人	1回	今年度は、R2年4月2日～R3年4月1日生まれの人は、期間:R9年3月31日までに接種を。	ワクチン接種により95%以上免疫を獲得できます。
水痘注射生ワクチン	1歳になる前日～3歳になる前日	2回	1回目は標準:生後12～15か月に接種。2回目は3月以上(標準:6月～12月)の間隔をおいて接種。	既に水痘と診断されたことのある人は接種できません。(医学的に必要がないため)	
日本脳炎(不活化ワクチン)	1期	(標準)3歳になる前日～7歳6か月になる前日	3回	2回(6日以上、標準:28日以内おいて)接種。追加接種2回目より6月以上(標準おおよそ1年)の間隔をおいて1回接種。接種量は0.5mlとなります。	生後6か月～3歳の前々日までに接種を希望される場合 接種間隔などは(標準)と同じ間隔で接種できます。ただし、接種量は0.25mlとなります。
		海外渡航などで接種を早期に希望する場合			
2期	9歳になる前日～13歳になる前日	1回			
	(特例)H19年4月1日以前生まれ(20歳になる前日まで)でまだ接種を完了していない人		1回目を H23年5月20日以降に接種している場合、2回目と3回目の接種間隔は6月以上あける必要があります。		
DT2期(不活化ワクチン)	11歳になる前日～13歳になる前日	1回	幼少期に接種するDPT、4種混合、5種混合ワクチンに含まれるジフテリア・破傷風の追加免疫の予防接種。		
ヒトパピローマウイルス(HPV)感染症(不活化ワクチン)	小学校6年生～高校1年生の年齢に相当する女子(9価ワクチン)	2回または3回		【15歳になる前日までに1回目を接種した場合】5月以上おいて2回接種で完了。 【15歳以降に1回目を接種した場合】0.2.6月の間隔で3回接種(できない場合は、1月以上おいて2回目を接種後、3回目を2回目から3月以上おいて接種。接種完了には6か月かかります。	